

一般医に対する難病患者の確定診断遅延に関するアンケート調査に関する研究のお知らせ

神奈川県立保健福祉大学ヘルスイノベーション研究科では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間	2024年4月4日～2025年4月30日
研究課題	一般医に対する難病患者の確定診断遅延に関するアンケート調査
研究の概要	<p>目的及び意義：希少疾患患者においては、診断の難しさや専門医へのアクセスの困難さにより、誤診や診断の遅れを経験する患者が多く存在している。確定診断の遅れは、患者のQOLを著しく低下させ、さらには、労働の維持を損なう可能性もある。この問題を解決するために厚生労働省が中心となってIRUD（未診断疾患イニシアティブ）や難病支援ネットワークを構築し対応しているがそれだけでは十分とはいえず、根本的な難病に対する医療の構造的な部分の改善が必要と考えられる。</p> <p>本研究では、難病の初診に関わる医師に対するアンケート調査を行い、難病患者の確定診断遅延の課題に対する認識や製薬企業がこの課題に取り組んだ場合の企業価値に対する影響について明らかにすることを目的とする。</p> <p>対象及び方法：一般病院に勤務する医師を対象にアンケート調査を行う。目標獲得症例は300例とする。サンプルサイズは、本邦の一般病院の勤務医師約16万人を対象とした。難病を疑う患者が最初に受診する可能性の高い一般病院に勤務する医師を対象としたものとなっている。この一般病院に勤務する医師16万人として、許容誤差を5%、信頼度90%として算出すると、271サンプルが必要とされる。したがって、今回の300例獲得は統計学的にも妥当なサンプル数と考えた。本アンケート調査は、市場調査会社であるNTTコムオンライン・マーケティング・ソリューション株式会社（https://www.nttcoms.com/）に委託し、同社の保有するパネルを用いて調査をする。データはすべて匿名加工情報として納品される。医師に対して、22項目のアンケート調査を実施する。資料として本アンケートの質問票を添付した。得られた結果から、難病患者の確定診断遅延に対する一般医師の認識を調査する。本研究の統計解析は、IBM社のSPSS ver28を用いて実施する。</p>
研究組織	<p>【研究代表者】 ヘルスイノベーション研究科 博士課程 田中 弘之</p> <p>【研究分担者】 ヘルスイノベーション研究科 教授 島岡 未来子</p>
個人情報の取扱い	<p>今回の調査は、シミックイニジオ社がNTTインターネットコム オンライン・マーケティング・ソリューション株式会社（https://www.nttcoms.com/）に委託し実施される。同社の保有するパネルを用いたインターネット調査である。シミックイニジオ社が、データを入手する前に会社によって、匿名加工処理ソフトウェアによる匿名加工処理が行われるため、個人が特定できないようになっている。アンケートに回答する前に規約に同意した方のみがアンケートに答えられるようになっている。個人情報保護方針及び取り扱いについては同社のホームページよりいつでも確認できるようになっている。 https://research.nttcoms.com/monitor/privacy.html</p>

その他	
-----	--

対象となる方で、研究の内容や、ご自身の検査結果などの研究への使用に関して、より詳しい情報をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。ご協力よろしくお願い申し上げます。

〔問い合わせ先〕

研究代表者： ヘルスイノベーション研究科 博士課程 田中 弘之

TEL : 044-589-8100 (代表)